第451号

Bellmark Shimbun

ベルマーク新聞 8月号

2018年（平成30年）8月10日（金曜日）

発行　公益財団法人 ベルマーク教育助成財団　東京都中央区築地5-4-18　汐留イーストサイドビル7階　〒104-0045　電話 03-5148-7255（代表）　郵便振替口座 00100-7-56035
大阪事務所　大阪市北区中之島2-3-18　朝日新聞大阪本社内　〒530-8211　電話 06-6231-0131　ダイヤルイン 06-6201-8031　ホームページ http://www.bellmark.or.jp/

みんなで一輪車に乗ろう！

へき地支援、熊本＆兵庫で今年度の教室スタート

①団体技の練習（母子小）
②手をつないで回転、その後逆回転（大野小）
③姿勢が大事（黒肥地小柳野分校）
④表現演技で決めポーズ（母子小）
⑤４人で頑張りました（黒肥地小柳野分校）
⑥練習を終えて（大野小）

へき地校への支援を進めているベルマーク財団では、今年度も５県７校で一輪車講習会を実施します。７月には熊本県と兵庫県の３校で講習がありました。講師はいずれも、国内外の競技会で優勝や上位入賞経験が多数ある鈴木奈菜さんと須郷（すごう）真弥さんです。

熊本県多良木町立黒肥地小学校柳野分校

90年を超す歴史を持ち、数十人の生徒を抱えていた時期もある分校ですが、今の児童数は各学年１人ずつの計４人。それでも全学年に児童がそろうのは７年ぶりだとのこと。教職員３人をあわせても７人という家庭的な雰囲気の分校です。

まずは一輪車を調整します。サドルの高さはおへその位置。意外に高いです。それから、個々のレベルにあわせた練習。本校からかけつけた安達貴美子校長も見守る中、１年生の中村愛斗（まなと）くんは壁を支えにし、まずちゃんと乗ることに一生懸命。２年生の源嶋良（げじま・つかさ）くんも頑張ります。３年生の坂井涼真くんは「横乗り」という技にも挑戦。４年生の川口礼沙（あやさ）さんは、一人で長く走れるようになりました。

講習を終え、こどもたちは「きつかった」「でも楽しかった」「教えてもらったことを忘れないように頑張る」と前向き。鈴木さんは「あきらめない気持ちを持って、たくさん練習してください」と励ましていました。

熊本県芦北町立大野小学校

児童数は41人で、へき地としては多め。創立は明治８年で140年の歴史があります。敷地が29000㎡もあり、ムササビが住む通称「忍者の森」が校庭から見えます。土地の名産は大関米というブランド米で、とてもおいしいそうです。

渡邉容子校長が「お二人は夢をかなえた人です」と講師を紹介し、「みんなも汗をかいて頑張って乗れるようになりましょう」とあいさつ。模範演技には「すごーいっ！」と大きな声が響き渡り、「きょうはみんな反応がいいね」と鈴木さん。

乗れる子と初心者に分かれ、それぞれ練習に励みます。先生の一人も初心者に交じって挑戦していましたが、なかなかうまく乗れない様子。一方、二人で手をつないで回転し、さっと向きを変えて今度は逆回転する乗り方ができるようになったペアも出てきました。練習を終えると、3、4年生の代表が「むつかしかったけれど一生懸命やりました、ありがとうございました」とあいさつしました。

兵庫県三田市立母子（もうし）小学校

児童数16人の同校ですが、子どもたちの体力や精神力、強い絆を育もうと、1991年から一輪車運動を続けています。全校生が一輪車で一つの物語を演技する「表現運動」にも毎年取り組んでいます。

今年挑戦している「リメンバー・ミー」を披露したところ、学校の先生たちが「いままでで最高」と驚くほどの出来栄えでしたが、講師の二人からは「できる力を持っているのに、練習で出し切っていないのでは」「技だけに集中するのではなく、観客にどう見えているのかということを意識して、表現力をもっと磨こう」との厳しい指摘が。指先にまで気を配ってしっかりと手を上げ下げする▽足のつま先の方でペダルをこぐ▽まっすぐ前を向いて走る――という基本をあらためて習い、みんなで練習しました。

小山浩和校長は「講習会は子どもたちにとって、とてもいい刺激になりました。これからどんな風に成長していくのか楽しみです」と話していました。

「西日本豪雨」被災校に支援を

ベルマーク「友愛援助」＆ウェブベルベルマーク

ネットのお買い物が、学校の支援になる。
Web Bellmark

西日本を中心とした７月の豪雨は、死者200人を超える大災害となりました。被災した学校を支援するため、ベルマーク教育助成財団は、緊急の友愛援助を募集しています。

友愛援助は、自分たちが持っているベルマーク預金を使って、援助資金を直接寄付することができる仕組みです。今回の豪雨では、浸水被害を受けたり、校舎が避難所として使われたりして、休校を余儀なくされた学校も多く、また自宅が被災して学用品を失った子どもたちもいます。厳しい環境に置かれた子どもたちに、どうか温かい支援の手を差し伸べてください。

協力していただける学校・団体は、財団ホームページの「ダウンロード」→「各種申込書」にある申請書に必要事項を記入して財団までお寄せ下さい。今年12月末まで受け付けます。

また、一般社団法人ウェブベルマーク協会も西日本豪雨被災校への緊急支援活動を始めています。

ウェブベルマークのホームページを経由してネットショッピングをすると、東日本大震災被災校への支援ができ、同時に自分が指定した学校にもベルマーク点数がたまる――これがウェブベルマークの仕組みです。その学校指定機能に「西日本豪雨支援」という項目が追加されました。「広島市」「倉敷市」「宇和島市」の各小学校を検索すると、リストの最後に出てきます。マイページ登録時にこの項目を選ぶと、支援金はベルマーク財団に助成され、被災校全体のために使われます。すでにマイページ登録をしている方は「登録情報変更」から同様に「西日本豪雨支援」を選択してください。今年12月まで受付予定です。

今年も授業で「ベルマーク」学習

千葉・みどりが丘小

（写真左）「みんなでベルマークを集めるぞー」
（写真右上）ベルマーク運動を紹介した映像を見る子どもたち
（写真右下）財団職員に次々と質問が繰り出されました

千葉県八千代市立みどりが丘小学校（内藤俊夫校長、児童数494人）で、ベルマーク財団の職員を招いてインタビューする授業がありました。3年生の総合的な学習の一環で、約70人が参加。さまざまな質問が飛び出しました。

同校では、人前で話し、相手の言うことを理解して協力する力を身につけることを目指し、昨年度の3年生から、ベルマーク運動について学んでいます。今年度も本や資料、財団のホームページなどで調べて質問項目を作成。「ベルマークのふしぎ大発見！～世界の友だちを助け隊～」という学習のタイトルも自分たちで考えました。

授業があったのは7月5日。まず財団制作のDVD「未来を育むベルマーク」を上映しました。ベルマーク運動がハンディを負った国内外の学校を支援する身近な社会貢献活動であることなどを紹介する内容で、子どもたちはメモをとりながら熱心に見ていました。

続いてインタビューです。元気よく手を挙げて次々と質問する児童らに、財団の職員2人が答えました。

――ベルマークではどんなものが買えますか？

学校で使うものならほぼ何でも。ニワトリやウサギといった動物は買えないけれど飼育小屋ならオーケーです

――外国にもベルマークはある？

自分の学校だけでなくハンディを負った学校の役にも立つという、日本と同じような仕組みのものはないようです。でも、タイでベルマーク運動を導入しようという動きがいま進んでいます

――ベルマークのキャラクターは「りんちゃん」以外にもいますか？

りんちゃん、ベルマーくん、ママベル、パパベルの4人が「ベルマークファミリー」です

「マークの最高点は」という質問で、「いまは100～200点ですが、1990年代には英語教材で2400点のマークもありました」と答えると、「えー」という驚きの声があちこちであがりました。

1時間半の授業を終え、子どもたちには財団のピンバッジとシール、スタンプがプレゼントされました。財団に電話して講師の派遣を依頼するという大役を果たした髙橋美詞（みこと）さんは、「電話した時は新体操の発表会より緊張した」そうです。「きょう財団の人のお話を聞いて、ベルマークが世界の困っている人たちの役に立っていることなどがわかり、すごくよかったです」。

また、恩珂呼蘭（えんけ・こらん）さんも「ベルマークはいろいろな人がうれしくなるような運動だということがわかりました。これからもたくさん集めたいです」と感想を話しました。

子どもたちは夏休み前に手分けして他学年の15クラスをすべて回り、学んだことを発表してベルマークの収集を呼びかけました。

みどりが丘小は2010年からベルマーク運動に参加、これまでに約34万点を集めて備品類を購入してきました。でも活動の中心は保護者会なので、児童らの関心は低かったそうです。こうしたことも、昨年度からベルマークの学習を始めるきっかけになりました。昨年のインタビュー授業後の夏休みには、3年生の児童が母親と一緒に東京・築地の財団事務所を見学に訪れ、ベルマークについて自由研究にまとめました。

瀬口朗子（あきこ）教頭は「子どもたちは授業中だけでは時間が足りず、帰宅してからもネットで調べるなど、とても意欲的に取り組んできました。自分で学んだことは忘れません。学習を通じて得た経験や知識をこれから生かしていってほしい」と期待しています。

ベルマークで「自由研究」を

小学生の財団見学相次ぐ

夏休みに入り、自由研究の課題としてベルマークについて学びたいと、小学生のお子さんを連れた財団見学希望が相次いでいます。

東京都新宿区立鶴巻小学校2年の岩﨑莉歩さんを連れてきた母親の奈緒子さんは、4月からＰＴＡのベルマーク委員だそう。「なぜベルマークを集めるのか、どんな事に使えるのかを、子どもたちにも理解してもらわないと」。莉歩さんもマークの切り取りを手伝っているそうで、「いつもベルマーくんみたいにハサミで切ってるよ」。段ボール箱が並ぶ倉庫に興味津々の様子。「いっぱいマークが届くのに、時間をかけて数えていてすごいなと思いました。学校のみんなにも教えてあげたい」。

中野区立平和の森小学校2年の御法川樹（いつき）くんを連れてきた父親の修さんは、最初は8月20日すぎの見学を希望していたのですが、「そんなに遅くでは間に合わない」と奥様に言われ、急遽、日程を早めました。「僕らのころは宿題や自由研究は休みの後半までやらなかったのに…」と修さん。樹くんは事前にしっかり準備し、職員を質問攻めにしていました。

また同区立桃花小学校からは、５年の山口り子さん、妹で２年生のれいさん、り子さんのお友だちで５年の山田りおさんが、り子さんの母親浩代さんに連れられてやってきました。財団の倉庫は通常は２人体制で仕事をしていると聞き、みんなびっくり。り子さんは運動そのものへの質問に加え、「ベルマークの仕事をしていてよかったことは？」などと職員の意識についても質問。また、りおさんは「検収の仕事はとても細かいけれど、慣れたら楽しそう」と感想を話してくれました。

復興支援に想い込め、スナッグゴルフ全国大会

礼儀と感謝の気持ちを忘れずに小学生181人が競う

①「打ちます！」と大きな声を出しました
②ミニゲームでプロに勝ったよ
③優勝校の茨城県笠間市立岩間第三小学校
④最後はみんなで元気に手を振って記念撮影

ベルマーク財団が後援している「スナッグゴルフ対抗戦 JGTO カップ全国大会」が、福島県西郷村のグランディ那須白河ゴルフクラブで７月 15 日に開かれました。

スナッグゴルフは、ゴルフをよりわかりやすく子どもから高齢者までが気軽に出来るよう開発されたもので、この大会では全国の小学生たちがその技を競います。東日本大震災の復興支援への取り組みの一つでもあり、ここ３年は福島県で、それまでは宮城県でも開催してきました。一般社団法人日本ゴルフツアー機構（青木功･会長､以下 JGTO）が主催し、多くの企業や教育委員会､県や市の協賛･協力で成り立ち、52 名ものプロゴルファーが個人的にも支援しています。33 校より、総勢 181 人の子どもたちが真剣勝負を繰り広げました。

最高気温が 36 度を超す炎天下のなか、開会式で選手宣誓をしたのは、昨年優勝した広島県東広島市立三ツ城小学校の６年でキャプテンの見寳大飛（けんぽう・ひろと）君。「保護者やチームメートなど、皆さんに感謝すると共に、ゴルフのマナー・ルールを守り、One for all, All for one の精神で正々堂々勝負することを誓います」と力強く述べました。

勝負はもちろん大切ですが、それと同じぐらい大事なのは、礼儀や感謝の気持ちを持つこと、そして安全への配慮が出来るようになること。これらのマナーを身に着けることも、本大会の重要なテーマになっています。この日も試合前にはきちんと帽子をとって相手に挨拶し、元気に「打ちます！」と声を出している子どもが多く見られました。

そんな子どもたちの様子を見て、武藤俊憲プロは「みんなに負けないように頑張らなきゃ」。また大堀裕次郎プロは「真剣な子が多く、将来はスナッグゴルフからゴルフに切り替えてくれたら嬉しい」と話していました。「ひたむきさが可愛い」と顔をほころばせていたのは、富村真治プロ。子どもたちは、憧れのプロたちと「左ねらう？右ねらう？」「ナイスバーディー！」などと直接会話を交わすことができて、とても嬉しそうでした。

優勝は 69 ストロークの茨城県笠間市立岩間第三小学校。表彰状と大きなトロフィー､金メダル､副賞のニシゴーヌ（西郷村のゆるキャラ）のクッキーを受け取りました。準優勝の広島県東広島市立三ツ城小学校は 76、３位の兵庫県神戸市立塩屋北小学校は 79 でした。続いてベストスコア賞の表彰状の授与……と思いきや、なんとここで、１月に選手会長になったばかりの石川遼プロがサプライズで登場し、子どもたちから大きな歓声が沸きました。石川プロは「皆さんのようなレベルの高いスナッグゴルファーの中から、ものすごいゴルファーが登場するのではないかとわくわくしています。今日抱いた嬉しい思い、悔しい思いを、これからの夢に活かしてください」とその期待を伝えました。

児童の代表として福島県西郷村立米小学校６年、相山蓮音（そうやま・はいね）さんが「この大会を応援してくれた皆さんと、東日本大震災の復興のため福島県を応援してくださった皆さん、本日は本当にありがとうございました」と感謝の気持ちを述べ、最後はみんなで拍手をしてお互いを称えあい、大会は幕を閉じました。

◆スナッグゴルフ　「Starting New At Golf（ゴルフを始めるために）」の頭文字をとってスナッグと名付けられた、ゴルフの基礎を学ぶためのスポーツです。SNAG には「くっつく」という意味もあり、その名の通り、ボールと、ホール代わりのフラッグには、マジックテープの加工がされていて､ボールがくっつくと、そこで「スナッグアウト」（ゴルフでいうホールアウト）となります。ルールはわかりやすく､また場所を選ばないため、ゴルフ場に限らず体育館や校庭でも遊ぶことが出来ます。用具はベルマークでもお買い求めいただけます。

カレーでも「自由研究」？

エスビー食品が赤坂のイベントにカレーブースを出店

協賛会社のエスビー食品（ベルマーク番号 09）が、東京都港区の赤坂サカスのイベント「TBS 夏サカス 2018 デジタル＆グルメパーク」に「ゴールデンカレー」を食べられるブースを出しています。「ゴールデンカレー」には 35 種類のスパイスとハーブが使われていることや、今回のブースでは５種のルウと７種の具材の組み合わせで 35 通りの味を選べることから、お店の名前は「CURRY SHOP GOLDEN35」です。１食 350 円。エスビー食品が推している「金曜日はゴールデンカレー」にちなんで金曜日は 300 円で提供されます。

ブースには子ども向けの自由研究コーナーが併設されています。スパイスとハーブを混ぜるカレー粉作りを、映像を使って疑似体験できるほか、本物のハーブに触って香りを体感することが出来ます。研究のヒントが書かれた小冊子も配布されています。

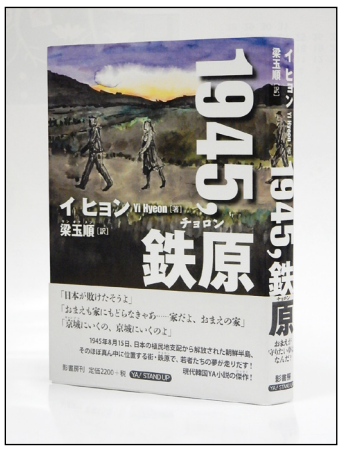
また、会場に掲示されている QR コードから専用サイトにアクセスすると、イメージキャラクターの吉田羊さんのフォトフレームをもらえます。

夏サカスは TBS テレビの主催で、９月２日（日）まで開催。営業時間は午前 11 時～午後９時です。“黄金の香り”を楽しめる「ゴールデンカレー」にはベルマークがついています。

読んでみたい本　児童文学評論家・藤田のぼる

暑い夏です。８月に戦争に関わる作品を紹介するというのは“いかにも”感があるのですが、昨年までの紙の新聞では８月発行号がなかったこともあり、この機会に２冊の翻訳作品を取り上げさせていただきます。

『マンザナの風にのせて』（ロイス・セパバーン・作、若林千鶴・訳、ひだかのり子・絵、文研出版）は、日系アメリカ人の家族をおそった悲劇の物語。1942年３月、シアトル対岸のベインブリッジ島に住んでいたマナミの一家は、カリフォルニア州の砂漠地帯マンザナに作られた収容所に移送されます。その途中、コートの中に隠していた犬のトモが見つかってしまい、その時からマナミの言葉は失われてしまいます。**『1945, 鉄原（チョロン）』（イ・ヒョン・著、梁玉順・訳、影書房）**の舞台は朝鮮半島のほぼ真ん中に位置する町鉄原（チョロン）。時代は1945年８月の「解放」直前からの２年ほど。大地主の息子に生まれながら共産主義に心を寄せる基秀（キス）、その幼馴染で小間使いとして働く敬愛（キョンエ）など、さまざまな境遇の若者たちの、南北朝鮮の対立の最前線ともいえる地での、文字通りの苦闘が描かれます。



僕が注目したのは両作品の作者の年齢で、前者は1974年、後者は1970年生まれ。この世代の作者が、自国の歴史の負の部分にも目をそらすことなく描き切っていることに、希望を覚えました。そして、どちらの作品も日本人の「戦争体験」を相対化し、立体化する視点と力を持った作品だと思いました。対象年齢としては、『マンザナの風にのせて』は高学年以上、『1945, 鉄原』はやはり中学生からでしょうか。

絵　本

『おうち』
（中川ひろたか・作、岡本よしろう・絵、金の星社）

帯に「はじめてのテツガク絵本」とあり、表紙カバーの折り返しには「なんでわたしはこのおうちにかえってくるんだろう？」とあります。この絵本にその答はありません、というと変かもしれませんが、でも、これを読んだ子どもは、この問いをとてもうれしい気持ちで自らに問いかけるに違いありません。みんなで読んだ後また一人で読むと、違った味わいが出てきそうです。（低・中学年から、1300円＋税）

『ひみつのてがみじゃ！』
（高木あきこ・うた、さいとうしのぶ・絵、リーブル）

サブタイトルは「にんじゃかぞえうた」。
一文字城の殿様が十文字城の殿様に大事な手紙を書いたという設定で、手紙が10人の忍者たちへ、次々にリレーされていきます。「一のにんじゃはいちごでござる／いちばんはじめに　はしるでござる／いちばんどりが　なくころに／いっぽんみちを　はしりだす」というふうに、こうした絵本にありがちな無理矢理感が全くなく、軽快に進みます。さて、殿様の手紙の用向きは？（低学年から、1100円＋税）

低・中学年向け

『こだわっていこう』
（村上しいこ・作、陣崎草子・絵、学研プラス）

時々「こだわりスイッチ」が入ることがあるそうまくん。しまう時の結び方が気になって、なわとびを放さず、あやまって友達のえるの目の上を傷つけてしまいます。「そうまくんと遊んじゃだめ」というお母さんに、うまく説明できないえる。えるの家に遊びにやってきたそうまくんは、お母さんが育てているバラの花の様子に、いろいろ注文をつけだします。マイペースのそうまくんと、波風を立てたくないえる。そして、そんなえるにしっかりダメ出しをするかんなちゃんと、登場人物の関係性が絶妙で、えるの右往左往に身につまされる読者も少なくないでしょう。（中学年以上向き、1300円＋税）

『わたしといろんなねこ』
（おくはらゆめ・作、絵、あかね書房）

七夕の短冊に「ねこがかえますように」と書いたあや。あやの家はマンションで、ねこは飼えません。ここまではよくある設定ですが、でも、あやの家にはいろんなねこが現れるのです。なぜ？どんなねこが？どんなふうに？　そこが誠にユニークというか、いろんな人のいろんな思いがねこを連れてくるとでも言ったらいいでしょうか。読み終わって、タイトルの意味がもう一度心にひびいてきます。（低・中学年向き、1200円＋税）

高学年・中学生向け

『サブキャラたちの日本昔話』
（斉藤洋・作、広瀬弦・絵、偕成社）

浦島太郎に出てくるカメは、オスかメスか？　なんとなくオスという印象ですが、産卵をするわけでもないオスがなぜ陸に上がって、子どもたちに捕まったのか？　それから桃太郎の犬は、たかがきび団子１個で、なぜ命に関わる鬼退治についていくことにしたのか？

言われてみれば昔話にはいろいろと腑に落ちない点があります。以上に加えて、金太郎のクマを加えた３者が、昔話の陰に隠された“真実”を語ります。（高学年から大人まで。1200円＋税）

『気がつけば動物学者三代』
（今泉忠明・著、講談社）

著書は先頃の「こどもの本総選挙」で一位になった『ざんねんないきもの事典』の監修者。タイトルの「三代」ですが、父、著者、息子に加えて、著者の兄も動物学者。子どもの頃父に連れられて、山で数えきれないほどのネズミなどを捕まえたという著者が、どのようにして動物学者になったのか。これもタイトルが語る通り「気がつけば」なのです。そこにはノーハウや教訓があるわけではなく、ひたすら様々な動物を追いかけて知り得た事実のおもしろさがあるだけです。イリオモテヤマネコとの遭遇や日本の研究環境への警鐘を含めて、幸せな発見に満ちたノンフィクションです。（高学年以上向き、1200円＋税）

ジブラルタ生命、被災地に向けてマーク寄贈

協賛会社のジブラルタ生命保険（ベルマーク番号15）が７月６日、福岡支社・旭川支社が集めたマーク1,467枚、35,245点を財団に寄贈しました。同社は年に一度、財団を通じて100万点前後を被災校などに贈っています。今回の寄贈日はちょうど西日本豪雨のさ中でもあり、「現在困っている学校のためタイムリーに使いたい」と、緊急支援マークとして贈られました。ベルマーク大使を務める執行役員の松本哲さんは「ベルマーク活動は、社員のボランティア意識を高める事にもつながっています。秋の寄贈に向けてさらにモチベーションをあげていきたい」と語りました。

「ベル便りコン」９月末が締切

第33回ベルマーク便りコンクールの作品を募集しています。

学校や幼稚園などで発行しているベルマークの収集や活動への協力を呼びかけるお知らせを、ベルマーク財団にお送りください。過去１年以内（2017年10月１日～2018年９月30日）に製作されたものが対象で、サイズやカラー、白黒は問いません。2018年９月30日締切（当日消印有効）。11月に財団ホームページで入賞校を発表します。優秀賞と佳作各10点と特別賞には賞金と、副賞として額入り表彰状を贈呈。他の応募団体には参加賞として2000円の図書カードを贈ります。

送り先は「〒104－0045東京都中央区築地５－４－18　汐留イーストサイドビル７階
ベルマーク財団『ベルマーク便りコンクール係』」。